スポーツボランティア
プログラム

障がい者スポーツ「事前学習Ⅱ」報告

2017/06/24

スポーツボランティアプログラム 障がい者スポーツ「事前学習Ⅱ」

6月24日（土）13:00～16:30、首都大学東京 南大沢キャンパス 国際交流会館 喫茶コーナーにて、スポーツボランティアプログラムの障がい者スポーツ「事前学習Ⅱ」を実施しました。17名が出席しました。

～ 東京都障害者スポーツ協会の市川さんと横田さんの講義 ～

公益社団法人東京都障害者スポーツ協会の市川さんによる障がい者スポーツについての講義で始まり、障がいの種類や障がい者スポーツの歴史、競技種目について、学生に問いかけながら分かりやすく説明をしてくださいました。障がい者スポーツの特性や、これからスポーツボランティアを行うための意義を学べた講義でした。

次に、同組織の横田さんより、障がい者スポーツに関わるボランティアについて、いかに工夫して安全に行うかを考え、障がいのある人が主体的に自分らしく取り組めるように、ツールとして関わって欲しいというお話をしていただき、競技者である障害のある人の気持ちに寄り添い、考えて行動することが重要だと学びました。

～ アイマスクを着けての疑似体験 ～

その後、視覚障がいの疑似体験をするため、広いスペースへ場所を移動しました。

まず始めに、アイマスクを装着しながらの歩行を行いました。

次に１対１で片方の人がアイマスクをして大きなボールでキャッチボールを行いました。

最後に、4人１組で2人のみアイマスクをしてサウンド・テーブル・テニス（視覚障がい者のために考え出された競技で、以前は盲人卓球と呼ばれていました。）のボールを使用して音とガイド役の声を頼りにボールをキャッチしたり、転がす体験をしました。慣れるまで、上手にキャッチをすることは難しいようでした。

視覚障がい者とガイドの役割をそれぞれ体験することで、視覚障がいのある方に対する理解を深めるとともに、基礎的なガイドの方法について理解できたようです。

休憩を挟んで、スライドを見ながら、視覚に障がいのある方の支援方法や、ルールの工夫についての説明と、他の競技の詳しい説明がありました。

～日野市社会福祉協議会の宮崎さんの講義～

最後の講義は社会福祉法人日野市社会福祉協議会 日野市ボランティア・センターの宮崎さんより、日野市での地域交流スポーツである「みんなといっしょの運動会」についての説明があり、その中で、マラソンの伴走者の体験談を朗読していただきました。ボランティアの大原則である、楽しみ・やりがい・笑顔をもとに自然とそういう気持ちになって、障がいのある競技者をアスリートとしてすごいと思えるようになって欲しいというお話をしていただきました。

～事前学習Ⅱを終えて～

今回の講義は、障がいのある方をサポートするにあたっての心構えなど、これから始まるスポーツボランティアプログラムの活動に活かして、役立てるための重要な内容でした。「今後の活動につながる知識が得られた」、また「障がい者の人が活動しやすい環境をつくっていかなければならないと強く感じた」等の学生の声もあり、ボランティアとして関わる意義や障がいのある人についての知識を学び、個人目標も設定し、有意義な時間を過ごせた日となりました。

東京都障害者スポーツ協会の横田さん

日野市社会福祉協議会の宮崎さん

視覚障がいの疑似体験：歩行

視覚障がいの疑似体験
サウンド・テーブル・テニスボール

視覚障がいの疑似体験
キャッチボール